

資料 F-1 ページ

(法第28条第1項)

2023 年度の事業報告書

NPO 法人犬と猫のためのライフポート

1 事業の成果

- ① の事業では、千葉県・茨城県・柏市の 3 自治体の保健所から、犬 170 頭、猫 284 頭の合計 454 頭を引き取り保護した。また前年度に引き続きスタッフ教育の強化を行った。施設の増改築は修繕およびメンテナンスにとどまった。※山梨県・福井県・静岡県・船橋市との協力関係は継続しているがタイミング等のミスマッチで受入は行わなかった。
- ② の事業では犬 159 頭、猫 296 頭の合計 455 頭を新しい飼い主に譲渡した。飼育管理効率の指標である保護から譲渡までの平均滞在日数は、犬 67 日、猫 87 日であった。また保護後の死亡率は犬 0%、猫 2.8%であった。また譲渡した犬のうち、少年犬および成犬（※）は 31 頭、生後 1 年以上の成猫は 26 頭であった。 ※生後半年以上を少年犬、1 歳以上を成犬と称する。
- ③ の事業では、幼齢不妊手術に関するホームページの訪問者数はのべ約 1.5 千人、飼育やしつけに関するホームページの訪問者数はのべ約 11 万 4 千人であった。
- ④ の事業では①で保護した犬 174 頭、猫 267 頭と、外来の猫 4 頭の合計 445 頭に不妊手術を実施した。
- ⑤ の事業では、より多くの方に向けて情報を発信するため、動画での活動報告や犬猫の紹介を開始した。なお、全事業の合計ホームページ訪問者数はのべ約 36 万 4 千人であった。
- ⑥ の事業では、新規事業開拓のためのニーズの調査、分析等を実施した。
- ⑦ の事業は、計画をしていたものの人員不足から実施しなかった。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
①行政施設で殺処分される犬猫を引き取り保護・飼育する施設（アニマルシェルター）を運営する事業	保健所や愛護センターなどの行政施設で殺処分直前の犬猫を施設に保護して、譲渡のための健康管理やしつけ等を行う。 また、譲渡が困難な犬猫については、施設で生涯飼育する。	随時	法人事務所	21 名	千葉県、茨城県、福井県、静岡県、山梨県、船橋市、柏市の 7 自治体

資料 F-2 ページ

②行政施設から引き取った犬猫に不妊手術を施し、新しい飼育者へ譲渡する事業	前記事業で保護した犬猫たちに不妊手術を施し、新しい飼い主に譲渡する。	随時	全国	15名	犬猫の飼育を希望する不特定多数
③幼齢避妊去勢手術の普及と犬猫の適正な飼育を啓発する事業	団体ホームページで幼齢不妊手術についての情報提供や啓発を行う。	随時	法人事務所	2名	不特定多数
④幼齢避妊去勢手術を主たる目的とした動物病院事業	団体が保護中の犬猫の不妊手術および、保護団体や個人が保護する犬猫を対象に、幼齢不妊手術外来を提供する動物病院を運営する。	随時	法人事務所 所属の 動物病院	5名	犬猫を保護する 団体や個人
⑤この法人の特定非営利活動に係る事業に関する情報提供・サービス事業	主にインターネットを通じて、前記事業すべてに対する情報発信を行う。	随時	法人事務所	3名	不特定多数
⑥その他この法人の目的の達成のために必要な事業	新規事業を模索し、開拓し、立ち上げるために必要な調査・研究・準備等を行う。	随時	全国	2名	不特定多数

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数
⑦ ・ペットホテル事業、 ・ペット霊園事業 ・通信販売事業 ・損害保険代理業 ・ドッグラン事業 ・物品販売事業 ・飲食事業 ・前号に該当しない動物病院事業	本来事業の助けとなるよう、定款に規定されたその他の事業についての調査および研究を行う。	随時	法人事務所	0名

以上

2023 年度 活動報告

<はじめに>

いつも当団体活動をご支援くださり誠にありがとうございます。2023 年度の活動報告をさせていただきます。

近年は殺処分問題をとりまく状況が当団体の活動初期から大きく変化しました。そのため、2023 年度はこれまでとは異なる主旨の目標も掲げて参りました。まずはその振り返りをさせていただきます。

<2023 年度の目標>

◆2028 年までに、一部の人や団体だけを犠牲にすることなく、殺処分ゼロを実現する自治体を新たに作る◆

人間の医療や福祉でも問題になっていますが、動物の保護活動も一部の人犠牲によって成り立っているのが現実です。献身と言えば聞こえがいいですが、それだけでは今後 10 数年生きる動物たちを数多く抱えて活動を続けていくことはできません。

こうした思いから、単純に殺処分ゼロを掲げるのではなく、具体的な道筋と在り方をイメージできる目標として掲げてきました。

◆猫を年間 500 頭譲渡する◆

猫は依然として保健所に持ち込まれる子が多く、譲渡による救命が大きな柱であるため数値目標を設定しました。

◆2028 年度末までに成犬の収容能力を二倍にする◆

譲渡が容易な子犬の殺処分問題はほぼ解決し、行き場のない成犬たちの救命が最後のハードルになっています。収容能力とは単にスペースがあるというだけではなく、一頭一頭に十分なお世話が行き届き、ご家庭には及ばないものの犬たちが元気に幸せに暮らしている状態をいいます。

※詳細は 2023 年度事業計画もご覧ください。

<各目標に対する活動状況>

◆2028年までに、一部の人や団体だけを犠牲にすることなく、殺処分ゼロを実現する自治体を新たに作る◆

この目標を掲げて、さてどうしたものか、と具体的に考えたときに一番の課題として挙がってきたのがお金の問題でした。現在の一番の課題は家庭で暮らすことが難しい成犬たちですが、施設の拡張費用は？フード代は？水道光熱費は？お世話の人件費は？という問題が当然発生します。

何をするにもお金のかかるこの活動。そして基本的には活動そのもので収益を上げることは難しい性質のもので、だからこそ多くの方のご寄付で成り立っていますが、それでも当団体の日常活動はここ数年毎年1,000万円を超える赤字(*1)と非常に厳しい状況です。犬猫を譲渡するときに里親さんに実費の一部をご負担いただいてさえこの数字ですので、譲渡が困難な動物が増えていけばもっと苦しくなることは目に見えています。

*1 ご遺贈などの予測ができない収入を除く

そこで本年度は「応援してくださる方を増やす」にフォーカスして活動してまいりました。

具体的には動画コンテンツやInstagramでの発信を通じて、活動を身近に感じていただける機会を増やしてきました。

ここに着手したのは当団体の二つの反省があります。

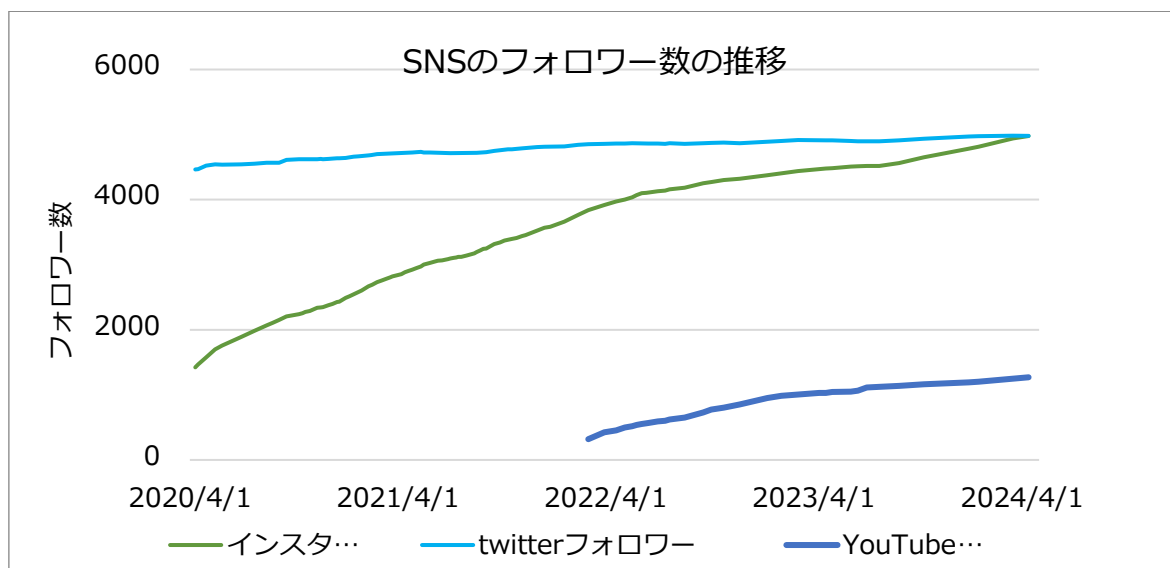
私たちは創業以来ひたすら保健所からの保護と譲渡を行ってきた団体で、その実績には価値があると自負しています。一方で「正しいことをしていればお金は後からついてくる」という考えから、外部に発信することが疎かになっていたことを反省しています。特に「支援して欲しい」という願いは二の次になっていて、潜在的な支援者に対して十分なメッセージを届けられていなかったと考えています。

もう一つは発信の方法です。創業以来変わらず「活動報告」「支援報告」「会計報告」などのかしこまった発信は比較的きちんとしてきたと考えています。しかし多くの方が求めるような活動のリアリティを感じられる発信はしてきませんでした。インターネットが当たり前のインフラになり、多くの方がSNSを身近に感じるようになった現在、当団体のこれまでの発信はどこか事務的で遠いところの活動に見えてしまうのかもしれない。

慣れないことに挑戦していますので実績はまだまだこれからですが、SNSネイティブの若いスタッフに

資料 F-5 ページ

も力を貸してもらって進めています。



◆猫を年間 500 頭譲渡する◆

猫は受入 284 頭、譲渡 296 頭と、500 頭の譲渡目標に対して 60%程度にとどまりました。

数年前まで年間 700 頭を譲渡していたころと比べて半減していますが、原因は前年度同様でこの傾向は今後一層強くなると考えています。

2022 年度活動報告から

- 1 社会全体で保護猫をもらえる場所が増えたため、相対的に当団体でもらう機会が減った。
- 2 団体として「たくさんの猫を保護していて 1 日でも早くもらってほしい時期」と、里親さん目線で「生活環境などを整えたりご家族がそろったりで、猫を飼い始めやすい時期」にミスマッチがある。

1についてはポジティブな理由ですが、2については他の団体や個人で活動する方も同様の苦勞をしているという話を耳にすることがあります。少子高齢化で猫を飼える方も減っていく中、団体間で里親さんを取り合うような状態は本質的ではありませんので、譲渡だけではない解決法も模索しています。

猫の受入と譲渡のデータ

猫	'16 年度	'17 年度	'18 年度	'19 年度	'20 年度	'21 年度	'22 年度	'23 年度
受入	654	822	810	770	560	591	468	284
譲渡	616	716	723	731	509	549	411	296
死亡	37	87	64	48	62	31	44	8
死亡率	6%	11%	8%	6%	11%	5%	9.4%	2.8%

資料 F-6 ページ

平均譲渡 日数 *1	66 日	85 日	97 日	81 日	71 日	54 日	76 日	79 日
平均滞在 日数 *2	67 日	87 日	101 日	89 日	71 日	70 日	90 日	87 日

*1 受入から譲渡までの日数のうち、年度内の日数

*2 未譲渡の子も含む、受入から譲渡や死亡までの日数のうち、年度内の日数

◆2028 年度末までに成犬の収容能力を二倍にする◆

施設を拡張するには時間がかかるため、本年度はハードウェア面では整備メンテナンスにとどまりました。前述の通り成犬たちの存在を発信する機会を増やし、施設を拡張する必要性を知ってもらうための広報活動を行いました。

犬の受入と譲渡のデータ

犬	'16 年度	'17 年度	'18 年度	'19 年度	'20 年度	'21 年度	'22 年度	'23 年度
受入	557	460	634	510	329	266	228	170
譲渡	531	476	575	523	390	274	188	159
死亡	3	3	12	8	7	1	3	0
死亡率	1%	1%	2%	2%	2%	0.4%	1.3%	0.0%
平均譲渡 日数 *1	32 日	28 日	35 日	37 日	30 日	29 日	43 日	48 日
平均滞在 日数 *2	38 日	40 日	52 日	54 日	30 日	34 日	67 日	67 日

*1 受入から譲渡までの日数のうち、年度内の日数

*2 未譲渡の子も含む、受入から譲渡や死亡までの日数のうち、年度内の日数

<活動にかかわるデータ>

2023 年度の犬と猫の譲渡目標

年度目標	受入数	譲渡数 (うち成犬・成猫)	平均滞在日数	死亡率
犬	-	- (50 頭)	30 日以下	5%以下
猫	-	- (50 頭)	60 日以下	10%以下
合計	-	700 頭 (100 頭)		

2023 年度の犬と猫の譲渡実績

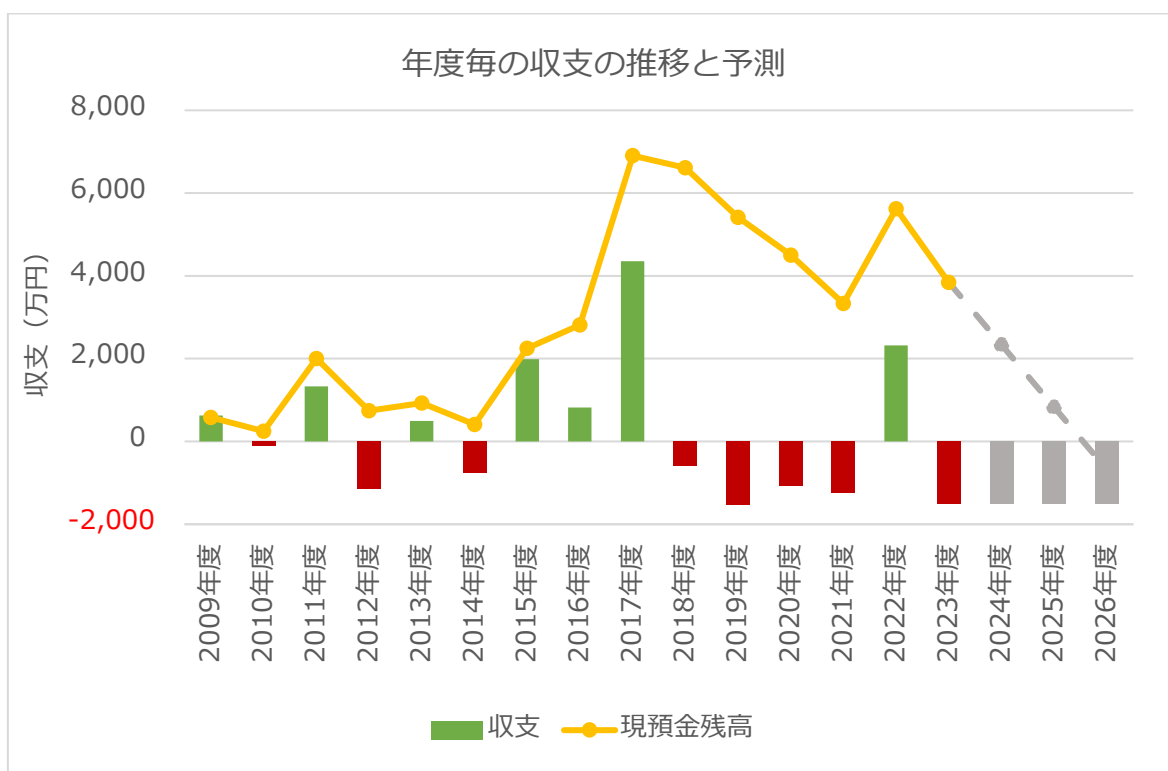
資料 F-7ページ

実績	受入数	譲渡数 (うち成犬・成猫)	平均滞在日数	死亡数/死亡率
犬	170	159 (31)	67	0/0%
猫	284	296 (26)	87	8/2.8%
合計	454	455 (57)	-	-

<収支・決算について>

詳細は決算書でご確認いただけますが、1,500万円を超える赤字と非常に厳しい結果でした。過去に頂戴したご寄付やご遺贈によってある程度の余力がありますが6期連続日常活動が赤字(※)で、このままでは3年後の活動が危ぶまれる状況です。引き続き収支の改善に取り組んで参ります。

※グラフはご遺贈を含む合計収支です。



以上が2023年度の活動報告です。

今後とも皆様のご支援ご声援をよろしくお願いいたします。

2024年5月19日

NPO 法人犬と猫のためのライフポート

理事長 稲葉友治